

助成年度：平成 15 年度

[所属] 島根大学 汽水域研究センター
[役職] 助教授
[氏名] 倉田 健悟

[課題]

高度に利用された汽水性潟湖の岸辺における物質循環

－緩傾斜護岸と復元湿地の生物群集－

[内容]

島根県宍道湖において岸辺の違いが湖の底生無脊椎動物群集に及ぼす影響について調べた。調査地点として選定した 4 カ所の特徴は、(1)斐伊川河口右岸の堆積した土砂にヨシ原が形成された場所、(2)緩傾斜護岸の前方に人工的にヨシが植えられた場所、(3)従来からある急傾斜のコンクリート護岸の前にヨシ群落が形成された場所、(4)従来からある急傾斜のコンクリート護岸の場所である。塩分は斐伊川河口からの距離に対応して違いが見られたが、波あたり、溶存酸素濃度、懸濁物濃度、等の環境要因は継続的な調査が必要であると考えられた。生物相はヤマトシジミが顕著でその他の種類は現存量の点からはあまり目立たない。安定同位体比の結果から、地点によって底生無脊椎動物の利用している餌の起源が異なることが示唆された。岸辺の違いがどのように作用するかさらに研究を進める。